

## 富田地区むらづくり運動推進協議会

### ①コミュニティー施設維持管理事業

(その1)七板区 / (その2)富嶋区  
(その3)新河原区 / (その4)田野区  
(その5)井ノ口区 / (その6)富塚区

### ②地域遺産・伝統文化継承事業 土打区

### ③コミュニティー機材整備事業

(その1)土布子区 / (その2)川上区

## 1. 基本データ

- |          |                     |
|----------|---------------------|
| (1) 地区名  | 富田地区                |
| (2) 地区人口 | 3, 345人             |
| (3) 面積   | 21.7km <sup>2</sup> |



## (4) 地区の沿革

富田地区は、東は九頭竜川、西は真名川の二大河川に挟まれ、日本百名山に数えられる荒島岳のふもとから、東西約4km南北約7kmに細長く広がる純農村地帯。

## (5) 実施主体

富田地区むらづくり運動推進協議会

## 2. 現状と課題

富田地区むらづくり運動推進協議会では、市民憲章を基調とし、富田地区の将来にわたって明るく豊かな地域の実現を図るため、地区住民が、自らの手による活気ある

地域づくりの推進に努めている。

しかし、各集落においては、区長を中心として様々な地域づくりに関する活動が行われていることに対し、富田地区全体となると、「花いっぱい運動」等の環境美化作業や「とみた夏まつり」以外には特筆すべき地域づくりの活動も見られず、協議会もそれらの運営に終始し、イベント終了後には活動が低調になっている。

この状況から脱却し、地域が一体となって取り組む、新たな地域づくりの方策を模索しているところである。



## 3. 事業の内容

本事業では、富田地区農地環境保全協議会が富田公民館の東側に設置したビオトープを核として、富田跨線橋下の空間を一部利用し、隣接するJR越前富田駅の周辺をも含めて、富田地区住民が集う「安らぎと憩いの場」としての一体的整備を行うこととして3箇年の計画を立てた。





事業の開始となった平成22年度には、むらづくり推進委員や区長会を中心とした地区住民の協働作業により、『ホテルがたくさん飛び交う空間になってほしい』との富田小学校児童の願いが込められ、「ホテルの里ほのぼのひろば」と命名されたビオトープを見下ろす高台に休憩所となる

あずまや  
四阿を設置した。



四阿 (H22)

平成23年度には、当初、ビオトープ観察棟の設置とJR越前富田駅の駅舎周辺に花壇を整備する計画であった。

しかし、花壇の整備予定地はJRが所有する土地であるため、整備後の維持管理費の問題や富田地区環境保全協議会で類似の取り組みが予定されているなどしたため、協議会役員に区長会を加えての協議の結果、ビオトープは富田小学校の環境教育

や生活科、理科の学習の場として有効な活用がされていることから観察棟の設置までを行い、その他の整備は、平成24年度計画を含め終了とし、一応の区切りをつけることとなった。そして新たに、希望する集落を募り、それぞれが抱える問題を住民の協働作業により解決する事業に対して支援を行うこととした。

その結果、ビオトープ観察棟の設置のほか、コミュニティ活動促進用機材購入事業として上野区と塚原区、コミュニティ施設維持管理事業として下麻生嶋区と塚原区、環境美化施設設置事業として森目区の計4集落の事業に取り組んだ。



富田小児童手づくりの観察棟看板 (H23)



観察棟 (H23)



上野区  
イベントテーブル購入  
(H23)



下麻生嶋区  
集落センター舗装  
(H23)



塚原区  
安全柵修繕  
(H23)

さらに今年度は、コミュニティー施設維持管理事業として七板区、富嶋区、新河原区、田野区、井ノ口区、富塚区の6集落、地域遺産・伝統文化継承事業として土打区、コミュニティー機材整備事業として土布子区と川上区、全部で9集落の事業に取り組むことにした。

#### 4. 事業の成果

##### ①コミュニティー施設維持管理事業

###### (その1)七板区

###### ・集落案内地図の設置

集落の入り口に設置され、訪問者を案内する(住宅)地図看板が老朽化し、景観を損ねるとともに安全性においても危惧されることから、自立型看板を改修するとともに、壁面取付型看板を新設した。



作業前



作業・完成

(その2)富嶋区

・共有地の整備

雑草木が生い茂り、荒地となっている区共有地を整地するとともに桜を植栽し、地区民が集いコミュニケーションを深める場所として活用していく。



作業前



作業

(その3)新河原区

(その6)富塚区

・集落センター敷地舗装

地域づくりの拠点として地区の集会はもとより、区民が集い交流を図る場として活用する集落センターの敷地を舗装し、利便性の向上を図った。



新河原区



富塚区



(その4)田野区

・JR越前田野駅自転車小屋修繕

越美北線を利用して通学、通勤する者の利便を図るため、周辺区が共同で設置した自転車小屋であるが、永年経過により鉄骨部材の腐食が進行し、景観を損ねるとともに安全性においても危惧されることから、改修を施した。



作業



完成

(その5)井ノ口区

・集落センター安全フェンスの改修

集落センター敷地と市道の境界に設置された金網製の安全フェンスが、永年経過により破損が激しい状態にあったことから改修を施し、安全性の確保と景観面の向上を図った。



作業前



作業



完成

②地域遺産・伝統文化継承事業

土打区

・歴史的遺産と伝承文化の継承

鎌倉時代に源頼朝の命を救った功績に、現在の富田・阪谷地区を拝領した御所五郎丸とその奥方の墓が区内に残されていることから、地域の財産として後世に継承するため案内看板を設置した。合わせて、古くに道中往来の安全を祈願してまつられたおけや地蔵を示す標柱を設置した。



御所五郎丸の墓案内板設置作業  
完成



おけや地蔵標柱設置 完成

### ③コミュニティ機材整備事業

(その1)土布子区

(その2)川上区

- ・ワイヤレスマイクシステムの購入

区民が集うレクリエーション活動や防災訓練において、情報伝達手段として活用する放送設備の充実を図った。



土布子区



川上区

### 5. 今後の展望

富田地区農地環境保全協議会が造成したビオトープに、むらづくり運動推進協議会集落委員を中心とした地区住民の協働作業により休憩所と観察棟が整備され、富田地区住民が集う「安らぎと憩いの場」が完成した。

既に、環境学習の場として、また、自然体験活動の場として富田小学校児童の積極的な利用がなされ、子どもたちの弾んだ声が聞こえ、楽しそうな笑顔が見られ、活気に満ちた場所となってきた。



ビオトープ観察会

また、とみた夏まつりでは、むらづくり集落推進委員会が中心となり、ビオトープの存在を地区住民に周知するとともに、地域づくりの拠点として活用することを目的に、ビオトープ一帯の風景を題材としたフォトコンテストを開催し、16名から40点の作品が応募された。



平成24年度ビオトープフォトコンテスト優秀作品

さらに、平成23年度には4集落が、平成24年度には9集落において、交付金事業を活用してそれぞれが抱える問題を住民自らが解決する協働作業に取り組んだ。

こうして、一歩ずつではあるが、地区住民が参加し、自らの力でふるさとに活気を再生しようとする動きが見られるようになり、地域の活性化に繋がることが期待される場所である。

### 6. その他

特になし